

# 校長室から

令和元年12月20日

**本当に大事なものは、隠れて見えない**

**正しい事が、正しいと認められる集団、雰囲気 とても大切です**

昨日19日(木)、第2学年の生徒対象に「防災講話」が行われました。この講話のきっかけは、先日、神戸の復興交流事業で第2学年の生徒8名が、仙台に戻ってきた今も、自分達が神戸で体験した事は、「楽しかった。よい思い出が出来た。」という事ではなく、「復興について」とも深く考え、「どうして神戸はあのように一体となって復興が進んだのか。」「仙台の復興とは何が違うのか。」「私達の東北は震災の記憶が風化してしまったのではないか。」等、とても大切な気付きからのものです。8名の生徒は、長町中の代表として感じた事をまずは、先生方に知ってもらいたい、そして同学年である2年生の生徒と共有したいという気持ちでいました。

その契機がとても早い時期にやってきました。先日、神戸でお世話になった方が、ゲストティーチャーとして仙台に起こしただけの事になり、昨日の「防災講話」の時間が設定されました。

神戸に訪問した8名はもちろんですが、とても素晴らしかったのは、第2学年の生徒達の聞く態度でした。第2学年の生徒達のほとんどは神戸に行ったわけではないので、8名の生徒とは意識の差があったと思います。「なぜ、今、防災の話なのだろう」と思った生徒も多くいたと思います。しかし、8名の代表生徒から話された学習の意義について、そして神戸のゲストティーチャーの話にしっかりと耳を傾けてくれました。

私が最初にあいさつで、第2学年の生徒達の中央に立った時、ほとんどすべての生徒達が顔を上げ、きちんとした態度で聞いてくれていました。集会で話すたび、授業を参観するたびに成長している第2学年の生徒達の姿をととても嬉しく感じます。

そして、講話の中で、○自他の命を大切にする○たくましく生きる○読み解く力をつける(なぜなのだろうと考えられるようになる) ○ふるさとを愛する○絆を深める事の大切さをお話いただきました。短い時間ではありましたが、先生がお話したかった事は、毎日の生活を大切にしていって、当たり前前に感謝できるようになる事なのかとも思いました。しかしそれは簡単そうで、とても難しい事だと私自身感じます。だからこそ、意識して生活してみたいと思います。

第2学年の生徒達が、自分達が経験していない神戸の体験に耳を傾け、ゲストティーチャーの話のしっかりと聞いてくれていた事、ゲストティーチャーへのお礼として歌った校歌合唱、これも実は当たり前前事ではなく、第2学年の生徒達が中学校生活を送る中で身に付けてきている大切に前向きな力なのだと思います。一人一人の正しい行為や意見が正しいと認められる集団の雰囲気は、とても大切だと思います。

昨日、8人がゲストティーチャーに感謝の気持ちをこめて歌った「いのちの歌」の中に、**本当に大事なものは隠れて見えない、ささやかすぎる日々の中にかげがえない喜びがある**という詩があります。本当にそのとおりだと思います。何気ない日々の中に人の成長があったり、出会いがあったり、素晴らしい体験をしたり、本当は私達の毎日というのはそのような繰り返しのかもしれません。

「防災講話」は、防災の知識や技術を高めるという事だけではなく、日々の生活について考える契機なのだと思います。今年度中に、全学年で共有する時間を持ちたいと思っています。